

# 1 学 校 教 育

「人間性豊かで進取の気性に富む、たくましい子どもの育成」  
～科学的な探究心をはぐくみ、確かな学力を身に付けさせる教育の推進～

本市は、長年農業と先端技術工業を産業の基盤として、いわゆる農・工一体型の地域社会として様々な知恵を編み出し駆使しながら発展してきている。また、自然・科学・文化・芸術等の分野に多くの優れた人材を輩出しており、学校教育においても、地域の教育資源や人材を積極的に活用し、感動ある学び・意欲的な学びの創造等を核に各種施策をすすめてきている。

各校ではふるさと教育や理数教育、外国語活動等を柱とする特色ある教育課程を編成し、児童生徒一人一人は具体的な目標を目指して主体的に学習に取り組んでいる。その成果として、粘り強く科学的に対象を見つめ、表現したり思考したりする活動を通して、科学分野や文芸・作文等で全国的にもすぐれた賞を受賞している。

これらのことを踏まえ、今後も科学する心と力をはぐくむ教育を一層すすめるとともに、科学的な探究心をはぐくみ、確かな学力を身に付けさせる教育に努め、地域の期待に応えていきたい。

## 1 人間性豊かで進取の気性に富む、たくましい子どもの育成

本市の目指す教育の将来像は、市の総合発展計画より「共生・躍動・自立」という視点ですすめてきている。特に、各地域の特色を生かした体験活動や道徳及び特別活動の指導を通して、人や自然を敬い感謝する心をはぐくまれるとともに、先人の業績や地域の文化に触れるふるさと教育を通して、学習に広がりや深みが増してきている。

また、学習指導要領で重視される言語活動の充実や、活用する力を伸ばす調べ学習（トライアングルプラン等）や読書活動、外国語活動、キャリア教育等を通じて、興味関心をもって学び続ける力も身に付けている。

今後、家庭学習を質的にも量的にも充実させることや言語活動をより充実させることに引き続き取り組むとともに、体験したことを表現し伝え合い、考察する活動を推進し、読解力等の生きてはたらく諸能力を培っていきたい。将来は、恵まれた環境を生かして物事に積極的に取り組み、文化を新しく創造していく子ども、人と豊かにコミュニケーションできる子ども等、心身共にたくましい子どもの育成を図っていきたい。

## 2 科学的な探究心をはぐくみ、確かな学力を身に付けさせる教育の推進

各校では豊かな自然や先人の業績に「触れ、学び、活かす」という機会をもちながら多様な学習活動を繰り返し、基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成を目指してきた。市では科学フェスティバル、理科支援員等派遣事業やホット・ヒート科学の心推進事業等、地域の人材や県立大学などの教育機関、企業等との連携を通して人的支援を図り、知的好奇心を喚起し探究的な活動を行うことができるようにしてきている。これらのことから、学校を取り巻く学びの支援ネットワークが構築され、多様な学習活動が各校で充実してきている。

さらに、全国調査等各種アンケートの分析・検証と、日々の授業研究とをリンクさせた授業改善の取り組みにより、子どもたちの学びの質も確実に向上してきている。

このことは、自ら課題を求め追究する姿勢が高まり、英語や漢字等の各種検定への参加者の増加、思考コンテストへの挑戦、日本学生科学賞の連続受賞など、自ら目標を立てて学び・成長し続ける子どもや学校の増加に表れている。

今後、このように自分の能力を最大限に発揮して自己実現を図る学びを「挑戦する学び」として、さらに教育支援ネットワークの活用を図りながら継続して推進し、個性豊かで主体的に学習に取り組む子どもを育てていきたい。

また、人との「コミュニケーション」のあり方や自分をかけがえのない存在とする「自己有用感」の持たせ方、「自己表現」の仕方などを根底に据えて、学習指導要領の趣旨を基盤にし、科学的な見方や考え方ができる児童生徒の育成、自信をもって確かな学力を身に付ける児童生徒の育成を図っていきたい。

### 3 由利本荘市の人間性豊かな子ども像

- 自然や地域文化を愛し、他人を思いやり奉仕する、心豊かな子ども
- いのちの尊厳や万物共生の精神を理解し、たくましく生きる子ども
- 目標をもち、自信と誇りをもって科学的に探究しながら、学び続ける子ども

### 4 学校教育の重点施策

**開かれた学校づくり ～地域連携の強化～**  
【学習指導】－【生徒指導】－【PTA活動】（会計経理含）

#### 【主な推進事業とその主体】

- みんなの登校日及び学校評価等の活用による「地域の学校」づくり
  - ①学校活性化アンケート等の実施により、目指す学校の姿を探る。
  - ②「あきた型学校評価」の活用により、経営のイノベーションを図る。
  - ③学校関係者評価委員並びに学校評議員による助言等をもとに、地域の教育力を活用した学校運営を一層進める。
- ふるさと教育と芸術、文化活動の推進
  - ・学校支援地域本部事業、コミュニティスクール事業の推進
  - ・芸術、音楽活動の充実      ・伝統文化、芸能活動の継承と発展
- 教育課程の計画的な実施（学習指導要領：小学校完全実施・中学校移行最終年度）
  - ・言語活動の充実      ・理数教育の充実      ・小学校外国語活動の推進
- 「ホットヒート！科学の心」推進事業と学校の活性化と授業改善の推進  
外部人材の積極的な活用を市教委がコーディネートして推進していく。
  - ①OB教員や大学教員等の活用      ②科学フェスティバルの開催
  - ③中学生アカデミーの開催      ④中学生会議の開催
- トライアングルプラン（学校、公立図書館、市教育研究所が連携）の推進  
市教育研究所のコーディネートのもと、三者連携から言語活動等の充実を図る。
- 学力対策委員会による学力向上の推進  
全国調査等の採点及び結果分析から、その検証・対策を図る。
- 地域ブロック（中学校単位）での特色ある取組の推進
  - ①広域3ブロック体制による授業実践研究会により指導力の向上を図る。
  - ②高校・大学との連携を強化し、学習や地域奉仕活動等に取り組む。

#### （1） 確かな学力の形成

本市の学力の現状は、全国調査や県学習状況調査によると、まとまりのある学力集団を形成し、小学校の学力はほぼ県平均並みで、中学校の学力はより優れており、基礎的・基本的な内容の定着も達成されている。しかし、「文章構成を活用する力」や「関数等を活用する力」についてはまだ十分なものとは言えず、小・中学校とも指導の改善を要する。

今後、授業改善や指導力の向上を通じて、一人一人の個性や特性を十分把握し、基礎・基本の確実な定着と、活用する力や探究する力との双方向性を踏まえた指導を心がけ、自信をもって粘り強く学び続ける子どもの育成を図りたい。

- ・授業改善プログラムの推進（ホットヒート！科学の心推進事業）
- ・ブロック別授業実践研究会の開催  
 （小学校：東ブ 10月13日，南ブ 10月26日，北ブ 11月18日）  
 （中学校：東ブ 10月13日，南ブ 11月9日，北ブ 11月22日）
- ・授業力向上訪問（国語，算数・数学，理科）の実施
- ・学力対策委員会等による指導力向上研修会の実施

【具体的な目標】	達成目標
<input type="checkbox"/> 個に応じた指導を充実させ，その子の能力を最大限発揮させる。 →基礎・基本の定着と学力上位層の増加 <input type="checkbox"/> 授業改善を通して学び手のニーズに応じた学習指導を展開する。 →教科が好きな子どもの増加 <input type="checkbox"/> 授業に係る学校図書館の活用を推進する。 →学びの質の向上（深化と拡充）	<input type="checkbox"/> 全国や県の調査で，各教科とも県平均を上回る学校数が全体の8割以上（検証：分析後，県との比較） <input type="checkbox"/> 各校で重点とする教科を決め，昨年以上の割合アップ（検証：分析後，経年比較による） <input type="checkbox"/> 各教科等で図書館を利活用した授業を各学級年3回以上実施（検証：年度末，アンケートによる）

○特色ある具体的な取り組み

- ・教育専門監（算数・数学，理科）の配置
- ・中学生アカデミー（個性ある学びの伸張）の実施
- ・トライアングルプラン（学校図書館と公立図書館の連携）の拡充

## （２） 豊かな心と感性の醸成

新学習指導要領の実施に伴い，道徳教育は全教育課程の中で教科等と関連を図りながら位置付けられ，道徳の時間についても指導の充実が図られてきている。今後，ふるさと教育のさらなる充実を通して，地域のよさや地域の一員としての再認識を深める教育活動を展開していく。

- ・道徳教育の各教科等の指導計画への位置付け
- ・読書活動の充実（朝の読書活動，読み聞かせ活動等）
- ・ボランティア活動の推進
- ・ふるさと教育と関連を図ったキャリア教育の充実

【具体的な目標】	達成目標
<input type="checkbox"/> 校長の明確な指導方針の下，道徳教育推進教師のリーダーシップに従い，道徳の時間を核とした道徳教育を積極的に推進する。 <input type="checkbox"/> 道徳教育と体験活動等を連動させた学びで道徳的心情や判断力，実践力を培う。	<input type="checkbox"/> 各校の道徳教育の指導方針と重点とする価値内容の明確化と，その指導展開の具現化 <input type="checkbox"/> 地域並びに社会に貢献しようとする姿勢の醸成

○特色ある具体的な取り組み

- ・中学生会議                      ・芸術鑑賞教室                      ・劇団四季ミュージカル鑑賞
- ・5日間の職場体験学習を核としたキャリア教育

## （３） 情報活用能力，コミュニケーション能力の育成

子どもたちの情報の利活用に関する指導を，図書館やコンピュータールーム等の施設活用を図りながら推進する。また，関係機関と連携して，情報化社会に必須な情報モラル教育を徹底する。

- ・CATVの教育的利活用（教育番組等の編成及び活用）
- ・情報モラル教育の推進（警察署や携帯電話会社等の外部機関との連携）

【具体的な目標】	達成目標
<input type="checkbox"/> 情報モラル教育の継続的に実施する。 <input type="checkbox"/> 情報機器等の効果的な教育利用を図る。	<input type="checkbox"/> 道徳の時間における複数回指導 <input type="checkbox"/> 複数教科における電子黒板の活用

○特色ある具体的な取り組み

- ・図書館補助員の配置（26校に配置）
- ・情報教育支援員の配置（週1日程度派遣）

#### （４）健康でたくましい心と体の育成

平成22年度の全国調査によると、本市の子どもたちの体格や運動能力は全国平均を上回っている。しかし、内容によっては県平均より下回る種目等もあり、特に、柔軟性や走力等については引き続き継続的な指導を行い、改善を図っていききたい。

不登校児童生徒数は、各学校でのきめ細やかな指導や支援の充実から徐々に減少してきているが、不登校に陥る理由が多岐にわたり複雑化してきていることから、一層関係諸機関との連携等を強化し解消を図っていく。

- ・校内相談活動の充実
- ・食の指導の充実
- ・基礎体力向上への取り組み（体育学習の活性化、朝・業間活動の奨励）

【具体的な目標】	達成目標
<input type="checkbox"/> 全国体力調査、新体力テスト等で低調な項目の向上を図る。 <input type="checkbox"/> 自己肯定感（自尊感情）をもって行動できる子どもを増加させる。 <input type="checkbox"/> 不登校児童生徒の出現予防と減少を図る。	<input type="checkbox"/> 50m走やシャトルラン等の走力について運動能力が7割の学校で向上 <input type="checkbox"/> 「自分にはよいところがある」と認識する割合が8割以上 <input type="checkbox"/> 不登校の新たな出現の防止と引きこもり傾向の改善

○特色ある具体的な取り組み

- ・心の教室相談員派遣事業（中学校2校）
- ・適応指導教室の設置（本荘ふれあい教室）
- ・スクールカウンセラー派遣事業（中学校8校）

#### （５）多様な児童生徒理解と支援の充実

特別支援教育については、県教育委員会、ゆり養護学校との連携を重視し、個別の指導計画等の作成を通して子どもたちへの支援を充実してきている。今後、幼保・小・中学校間での相談活動等、適切な支援を受けることができるような体制の整備を図っていく。

【具体的な目標】	達成目標
<input type="checkbox"/> 特別支援教育コーディネーターの配置と、児童生徒の個別の計画等の充実を図る。 <input type="checkbox"/> 特別支援教育のネットワークを強化し、地域ぐるみの支援体制を充実させる。	<input type="checkbox"/> 支援を要する子どもの個別の指導計画と個別の教育支援計画を全て作成 <input type="checkbox"/> 当該校間ならびに異校種間による情報交換等の精緻化

○特色ある具体的な取り組み

- ・特別支援教育地域支援センター・相談ルーム（鶴舞小、矢島小）
- ・学校生活サポート事業（特別支援教育支援…21校、日本語指導支援…3校）

<その他の教育活動事業等>

- ・学校支援地域本部事業「ボランティア活用」（直根小、岩谷小、出羽中）
- ・秋田県特色ある教育活動事業「表現活動」（西目小）
- ・学校図書館研究大会本荘由利大会（由利小・由利中）